

第60期 株主通信

2012年4月1日～2013年3月31日



「ユーザー目線」を合い言葉に 各事業の連携を進め、 利益体質の強化に努めます。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに当社第60期(2012年4月1日から2013年3月31日まで)の株主通信をお届けさせていただきますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

佐野嘉彦

当期業績の総括を お願いします。

二 プログループは、昨年度から引き続き、生産・販売拠点の拡充、強化に取り組み、地域に密着した迅速かつきめ細やかなサービス提供を行うことで、売上拡大と収益向上に努めてまいりました。

この結果、当期の実績は以下のとおりとなりました。なお、セグメント別の概況については、3～4ページに記載のとおりであります。

なお、期末配当につきましては、個別配当性向50%を目安とする従来の配当方針に基づき、また、今後の事業展開等を勘案し、1株につき15円50銭とさせていただきます。

第60期 通期実績			
	第59期	第60期	前期比 (%)
売上高	212,013	241,020	13.7
営業利益	15,825	11,370	△ 28.2
経常利益	11,983	14,363	19.9
当期純利益	4,585	10,231	123.1

(単位:百万円)

成長のための具体的な取り組みについて お聞かせください。

二 プログループは、市場での競争力を一層高めるため、今年4月、医療機器と医薬品の営業活動の一本化によるお客さまへの迅速かつ適切な対応の推進を本格的にスタートいたしました。今後、2014年度末を目途に、ジェネリック医薬品やキット製品の開発・製造と、受託生産を行う医薬関連事業の中核企業であるニプロファーマ株式会社を統合する予定です。同じ医療機関でも、分野が違えばニーズも変わるため、それぞれの専門分野の要望や考え方を理解する必要があります。そういう意味でも、医療機器と医薬品の専門の担当者が連携し、それぞれが培ってきた知識や人脈を活かすことで、新たな可能性が広がると考えています。

また、国内外でさらなる成長を遂げるためには、メーカーとしての技術力、製品力の強化を急がねばなりません。そこで、今年3月、循環器病分野で高いブランド力をもつ医療機器メーカー、株式会社グッドマンを子会社化。心臓カテーテル関連製品の営業活動に必要な独特のノウハウ、そしてグッドマンの強力な営業網を活かして、循環器関連事業の拡充を目指します。

グローバル展開については、 いかがでしょうか？

発 展途上国での事業拡大に向け、積極投資で拡充した結果、海外拠点が40カ国を超えるまでになりました。昨年末に、インドネシア、バングラデシュ、インド、タイの工場と営業所を周ってきましたが、いずれの国でも力強く前進している姿が印象的で、アジア諸国の成長力はめざましく、市場としてもたいへん魅力的な地域だと感じました。当社も、各国の市場ニーズに合わせた製品をタイムリーに投入して、シェア拡大に努めてまいります。

最後に、株主の皆さまへ メッセージをお願いいたします。

2 013年度は、競合他社との競争に勝ち抜くための「利益体質元年」と決めました。「患者さま目線」「ユーザー目線」を合い言葉に、グループ一丸となって利益体質への転換に取り組み、拡大路線を確実に歩んでまいります。

株主、投資家の皆さまには、引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

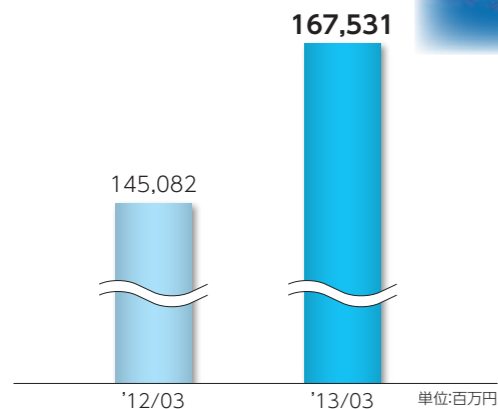
(注)2012年10月1日の組織改編で医薬事業部が創設されたことを受け、従来硝子関連事業に計上してきた売上高の一部を医薬関連事業に計上するセグメントの変更を行いました。前期のセグメント別売上高は、変更後の報告セグメントの区分に基づき記載しております。

医療関連事業



国内販売は、積極的な数量拡大、シェア拡大を目指した販売展開、販売効率の向上に努めた結果、透析関連製品が大きく伸長したほか、検査関連製品、経腸栄養関連製品、注射・輸液関連製品も順調な伸びを示した。

海外販売は、世界各国において積極的に拡大してきた販売拠点における堅実な販売活動に年初来の急激な円安進行も追い風となり、大幅な伸びを示した。



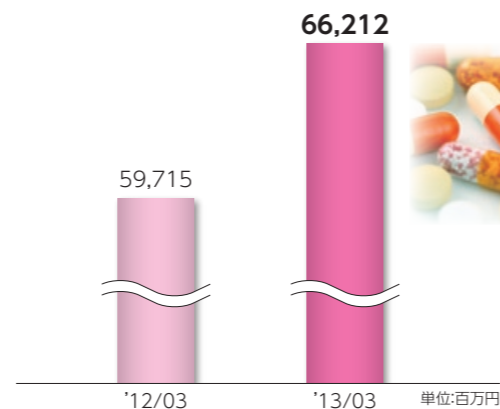
医薬関連事業



ジェネリック医薬品販売部門では、調剤薬局、処方元病院・医院への販売促進を強化するとともに、医薬品卸との連携を通じ、経口剤のシェア拡大を図り、また、基幹病院を中心に一層の情報提供に努めた結果、売上高は堅調に推移。

製造受託部門では、多様な受託サービスの提供に注力。国内外の大手製薬会社のジェネリック販売部門、新薬開発部門との共同開発による受託を推進した結果、売上高が前期比大幅増。

医薬品包装容器・医薬品調整・投与デバイスでは、当社のもつプラスチック、ゴム、金属加工技術を背景に、各々の医薬品に適した容器、システムを提供した結果、順調に推移。

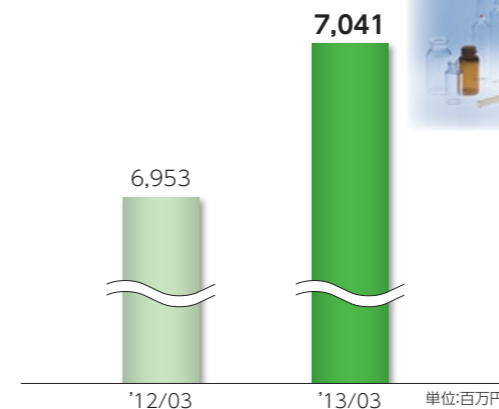


硝子関連事業

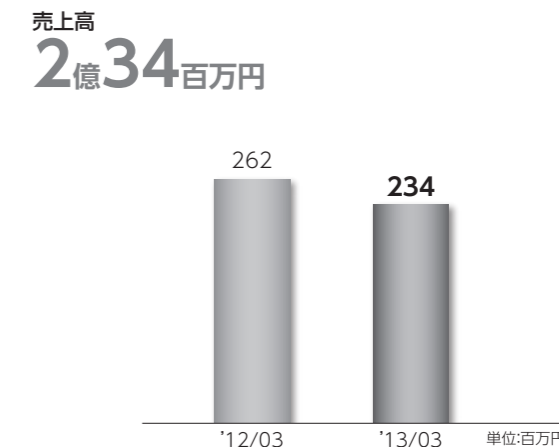


医療・医薬用硝子管の管瓶用生地管、アンプル用生地管は、管瓶用生地管が国内・海外向けともに順調に売上高を伸ばしたが、アンプル用生地管は国内需要の減少、海外需要も低調となり、全体として前期比若干減少。

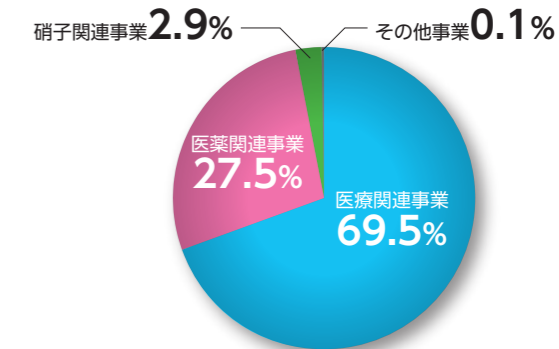
管瓶類はワクチン用管瓶の需要増加により前期比増。中国における医薬用硝子事業は、日系企業製品の不買運動の影響が心配されたが、販促活動の強化により前期比若干増。



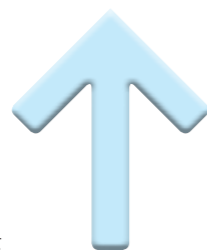
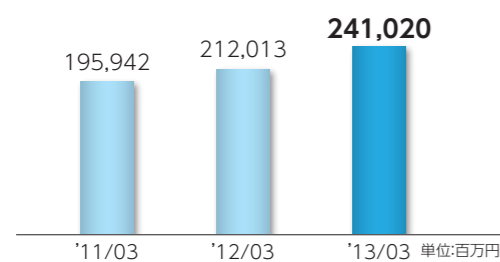
その他事業



セグメント別構成比



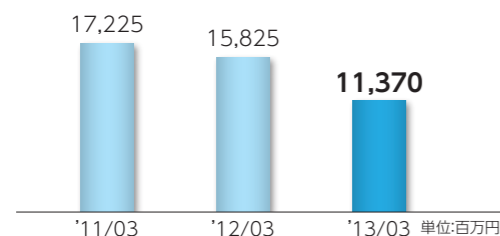
売上高



13.7%増 (前期比)

医療関連・医薬関連・硝子関連の各セグメントで売上高が増加しました。

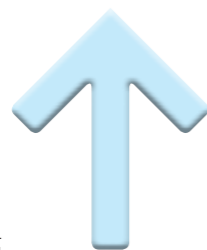
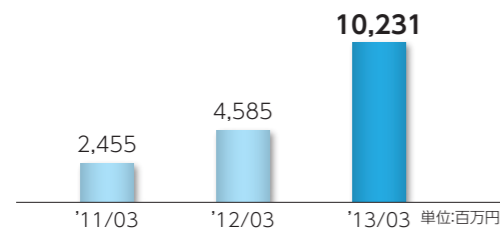
営業利益



28.2%減 (前期比)

海外子会社の増加、営業活動強化による販売費及び一般管理費の増加(前期比74億1百万円の増加)により減少しました。

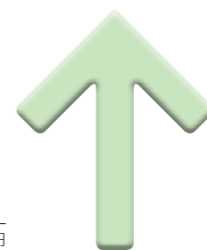
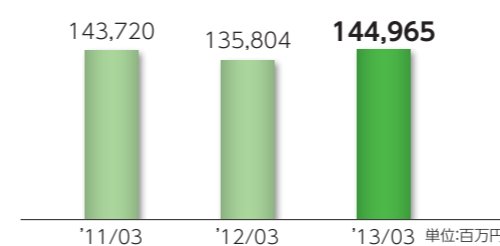
当期純利益



123.1%増 (前期比)

為替差益の発生(30億62百万円)、投資有価証券売却益の発生(41億67百万円)や、災害による損失の減少(前期比13億40百万円の減少)により増加しました。

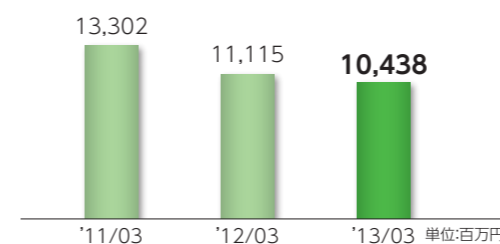
売上高



6.7%増 (前期比)

医療関連のセグメントで売上高が増加しました。

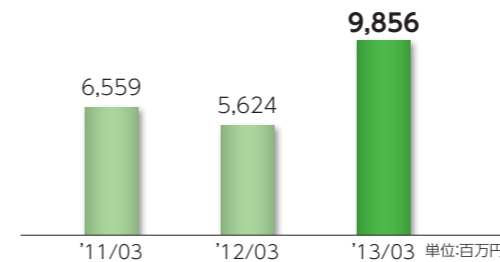
営業利益



6.1%減 (前期比)

営業活動強化、試験研究費の増加による販売費及び一般管理費の増加(前期比20億60百万円の増加)により減少しました。

当期純利益



75.2%増 (前期比)

為替差益の発生(31億10百万円)、関係会社株式売却益の発生(25億6百万円)により増加しました。

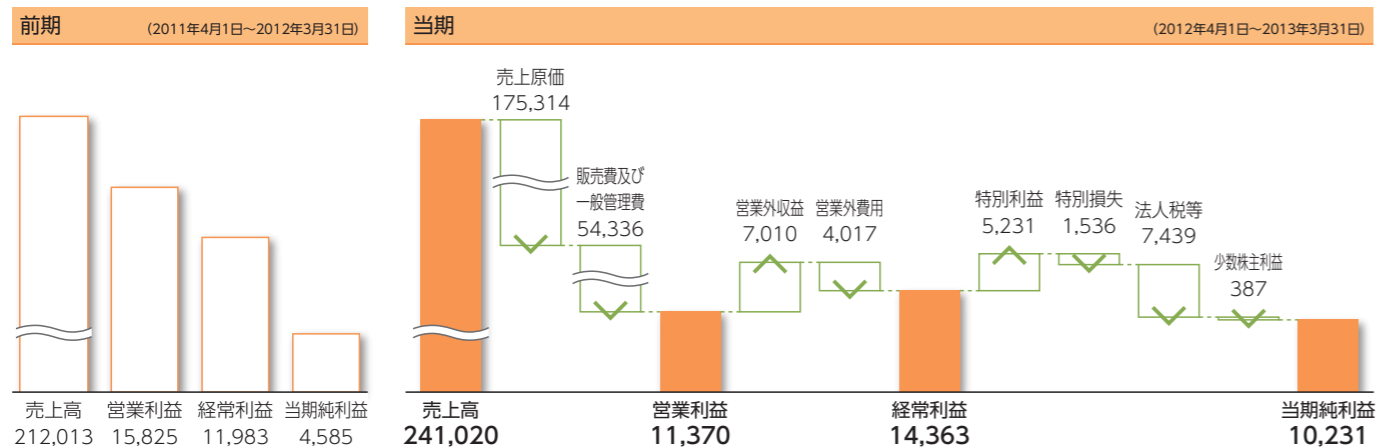
連結貸借対照表

(単位:百万円)

前期末 (2012年3月31日現在)	当期末 (2013年3月31日現在)	前期末 (2012年3月31日現在)	当期末 (2013年3月31日現在)
資産合計 499,686 流動資産 250,435 固定資産 249,250 有形固定資産 145,678 無形固定資産 19,151 投資その他の資産 84,420	資産合計 579,302 流動資産 287,974 固定資産 291,328 有形固定資産 174,702 無形固定資産 34,265 投資その他の資産 82,360	負債・純資産合計 499,686 負債 385,735 流動負債 189,089 固定負債 196,645 純資産 113,950 株主資本 132,558 その他の包括利益累計額 △22,737 少数株主持分 4,129	負債・純資産合計 579,302 負債 450,539 流動負債 213,758 固定負債 236,780 純資産 128,763 株主資本 138,957 その他の包括利益累計額 △18,983 少数株主持分 8,789

連結損益計算書

(単位:百万円)



Topics

ES/iPS細胞自動培養装置を開発

2012年11月、ニプロと京都大学物質-細胞統合システム拠点(iCeMS)は、胚性幹細胞(ES細胞)・人工多能性幹細胞(iPS細胞)などを安全かつ効率的に生産できる自動培養装置のプロトタイプを開発しました。

この装置は培養に特殊な表面処理をしたバッグを用いるため、培養操作中の汚染のリスクを軽減でき、また一度に大量の細胞を効率的に調整できます。

本装置は、NEDO*の研究プロジェクト「ヒト幹細胞実用化に向けた評価基盤技術開発」の一環として開発したものです。

*NEDO:独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構



「植込み型補助人工心臓 HeartMateII」を販売開始

2013年4月、「植込み型補助人工心臓 HeartMateII」の販売を開始しました。

「植込み型補助人工心臓 HeartMateII」は、末期重症心不全で心臓移植が必要な患者さまに対して体内に植込み、血液循環を改善維持する装置です。小型の軸流ポンプ方式を採用しており、退院し在宅での療養を可能とすることを目的として使用されます。また、本製品は、既にアメリカやヨーロッパなどでも使用されており、全世界で13,000例以上の実績がある植込み型補助人工心臓です。

ニプロは、今後も患者さまのQOL向上はもちろんのこと、より安全で、環境に配慮し、医療従事者の方々にも満足いただける製品の開発、提供に努めてまいります。



循環器関連事業を強化
~株式会社グッドマンを子会社化~

株式会社グッドマンに対して公開買付けを実施した結果、2013年3月、株式会社グッドマンを当社の子会社とし、今後循環器関連事業をより一層強化していくこととなりました。

医療関連事業においては人工透析関連、一般ディスプレイ製品に次いで循環器関連の医療機器を第3の柱として育成する方針であり、2020年度にはこの分野の製品で300億円以上の事業規模に成長することを目標に掲げました。



インドネシア共和国

東西に約5千キロ、赤道をまたぐ約1万8千の島からなるインドネシアの人口はおよそ2億3千8百万人で世界第4位。その大多数がイスラム教徒であり、世界最大のイスラム人口国です。東南アジア諸国連合 (ASEAN) に加盟しており、ASEAN本部はインドネシアの首都ジャカルタにあります。日本政府も2011年よりASEAN大使をジャカルタに常駐させています。1998年のアジア通貨危機に端を発するインドネシア経済崩壊の中で、30年もの長期政権を担ったスハルト政権が崩壊し、民主化の時代を迎えました。2011年の実質GDP成長率は6.5%に達し、好調な内需、豊富な資源を取り込むために日系企業の進出が続いています。また、日・イ経済連携協定 (EPA) に基づき、インドネシア人が日本の看護師・介護福祉士の国家試験を受験するなど、インドネシアと日本には強い結びつきがあります。

インドネシアの医療状況

インドネシアの医療市場は年間14~15%の成長を遂げており、2014年からは国民皆保険に向けた新たな保険制度がスタートするため、今後も高い成長が期待されています。血液透析患者数は現在1万7千人程度とされていますが、潜在患者数は5万人を超えるといわれており、現在、透析施設や専門医が不足しているという問題があります。



人口	約2億3,800万人
面積	約1,890,800km ²
言語	インドネシア語(公用語)
首都	ジャカルタ

(出典:外務省ホームページより)

事業所・工場紹介

P.T. ニプロインドネシア ジャヤはジャカルタから東へ60kmに位置するカラワン県スルヤチプタ工業団地内にあり、敷地面積は12万5千m²で延床面積が5万5千m²。生産品目はシリンジ、インスリンシリンジ、血液回路、AVF、輸液セット、留置針、吸引カテーテル。インドネシア国内向けの血液回路は既に販売開始し、その他は生産に向けて調整中。従業員は2013年3月末で約400名。うち、日本人駐在員は4名です。



◆P.T.ニプロインドネシア ジャヤ
所在地:西ジャワ州 カラワン



ボルブドゥール遺跡

観光名所・歴史について

ジャワ島中部の都市ジョグジャカルタには世界遺産であるボルブドゥール遺跡やプランバナン寺院があります。ボルブドゥール遺跡から見る日の出は美しく、人気の高い観光名所の一つです。ジャカルタからは飛行機で1時間程度。

独自の風土・習慣について

人口の約8割がイスラム教徒であり各地にモスクが存在します。イスラム教徒であるインドネシア人は1日5回のお祈りを行い、豚肉は食べず、お酒も飲みません。1年に1度断食の月があり、日の出から日の入りまでは一切の飲食をしません。ただし、インドネシアではイスラム教を国教とはしていないので、豚肉やお酒を提供する店もあり、中東地域のイスラム国とは少し異なります。なお、観光地で有名なバリ島はヒンドゥー教徒が大半を占めます。



プランバナン寺院

経済の流れについて

経済発展に伴ってバイクや車を持つ人が増えてきていますが道路整備などが遅れており、ジャカルタ近郊は毎日渋滞。地下鉄やモノレールといったインフラ整備が普及していないのもこの渋滞の原因の一つです。政府は地下鉄、モノレールの建設に着手するよう動いており、早期完成が望まれます。

『利益体質元年』の年とする。

「ユーザー目線」を合言葉に患者さまに価値を生み出す力をもって、他社との競争に勝ち抜き、今後更なる業容拡大と拡大路線を着実に推し進めてまいります。

【目標】

1 2020年度売上高5,000億円の必達



【意識】

2 ユーザー目線、お客さま目線に立った経営の実践と徹底

3 営業力の強化、情報の活用による営業効率の向上と利益体質の強化

【連携】

4 営業・開発・生産部門の連携による商品企画力、技術開発力の強化

5 医療機器・医薬品・医薬品容器の各事業部門が三位一体となって、患者さま、医療従事者の視点に立った製品開発と営業を実践

6 医療機器・医薬品の営業活動の一本化によるお客さまへの迅速かつ適切な対応の推進

【見直し】

7 各種委員会活動による製品品質・生産効率の向上と標準化、安定供給およびコストダウンの徹底

8 意欲を持って前向きにチャレンジする社員、価値を生み出した社員を適切に評価する仕組みの構築



2013年4月より新しいテレビCMを放映しています

ニプログループの医薬品の営業部門の統合に伴って、薬剤師さんにエールを送るCMと医師・看護師・薬剤師の皆さんのたゆまぬ連携で支えられている医療現場を私たちの医薬品の研究開発でお手伝いしたいというメッセージを込めたCMの2本を追加し、4月より放映しています。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	単元株式数	100株
株主確定のための基準日	定時株主総会 3月31日	公告方法	電子公告 http://www.nipro.co.jp/
	期末配当金 3月31日		事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、
	中間配当金 9月30日		日本経済新聞に掲載して行います。

株主優待制度 2014年より、株主優待制度を次のとおり変更します。

保有株式数	継続保有期間	優待品 (JCBギフトカード)	基準日	発送時期
1,000株以上	1年未満	なし	毎年 3月31日	基準日の属する年の 6月下旬
	1年以上3年未満	5,000円分		
	3年以上5年未満	10,000円分		
	5年以上	15,000円分		

(注) 本年(2013年)10月1日以降、当社株式(1,000株以上)を取得し引き続き保有される株主様について、変更後の優待制度が適用されます。
ただし、本年9月30日現在の株主名簿において1,000株以上を保有されている株主様で、同日後の各基準日における継続保有期間が3年未満である方につきましては、継続保有期間が3年以上になるまでの期間は、経過措置を講じます。

株主名簿管理人 同事務取扱場所 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
〒530-0057 大阪市北区曽根崎二丁目11番16号 みずほ信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受取り方法の変更等)	お取引の証券会社等になります。	みずほ証券 本店、全国各支店および営業所プラネットブース (みずほ銀行内の店舗)でもお取扱いたします。 ※カスタマープラザではお取扱できませんのでご了承ください。 みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行およびみずほ銀行の本店および全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。
確定申告の際には、同封の配当金計算書をご利用いただけます。株式数比例配分方式を選択された株主様については、お取引の証券会社にご確認ください。		



本社
〒531-8510 大阪市北区本庄西3丁目9番3号
TEL:06-6372-2331(代表)



この報告書は、再生可能な植物油インキを使用しています。